

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書4章31-44節＞

①ルカ福音書の特徴 一 点でなく線で読み取る。4章も全体から！

ルカによる福音書4章31～41節には典型的なイエス様の奇跡物語が記されています。そのまま読めば現代人には信じかねる話ですが、その前後を合わせ読むと見えて来ることがあります。

②イエス様を引き留めようとする人々、出て行こうとするイエス様

人々は病気を癒し、悪霊を追い出すイエス様を「自分たちから離れて行かないようにと、しきりに引き止めた」(42)、しかしイエス様は「ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならない。わたしはそのために遣わされたのだ」(43)と言われました。このやり取りから知られることがあります。まず、イエス様を自分たちだけの医者としてしまってはならないということ。次に、「神の国の福音」とは何なのかです。なぜなら、この43節のイエス様の言葉によって、「神の国の福音」は「悪霊が追い出され、病気が癒されるに勝るもの」であることが分かるからです。それを聞くともうイエス様がそばに居なくても大丈夫だと思えるようになる、それが「神の国の福音」なのです。

③神の国の福音とは、神の支配の中に置かれていることを知る福音！

仙台では、筋ジストロフィーの病の信仰者たちが立ち上げた施設に住む3名の兄弟姉妹が教会員でした。彼らの病は治ることはありませんでしたが、それぞれイエス・キリストの救いを最後まで固く信じて生き、召されて行きました。彼らは「信じたら癒される」信仰ではなく、「癒す力をお持ちの方を信じる」信仰をしっかりと捉えていました。「神の国の福音」の「国」は元の原語では「支配」を意味する言葉です。すなわち、イエス様は、「ほかの町にも神の支配のよき知らせを告げ知らせなければならない」と言われたのです。「独り子を私たちのために遣わして下さった真の神様がこの世界を支配されているのだから、どんな状況にあってもこの主の平安を覚えながら生きられる」、そう彼らから教えられたのでした。私たちに告げ知らされた福音とはそういうものなのです！ そのような福音を信じ、宣べ伝える教会でありたいと思います。